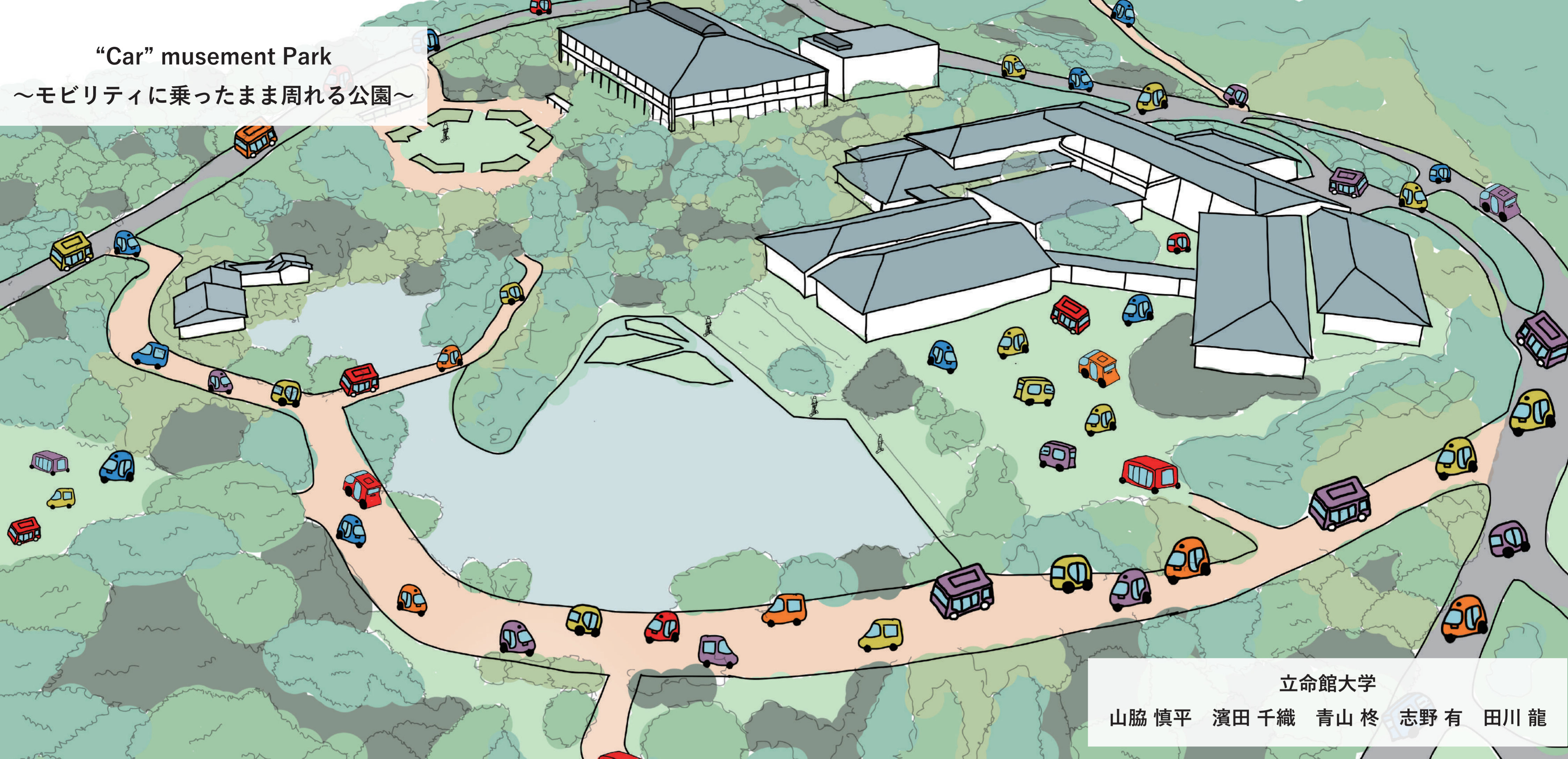


“Car” musement Park

～モビリティに乗ったまま周れる公園～



立命館大学
山脇 慎平 濱田 千織 青山 柊 志野 有 田川 龍

計画コンセプト

本計画案は、地元としてのびわこ文化公園の開発目標や方向性、具体的方策について定めたものです。公園の緑豊かで地元寄り添ったコンセプトを維持しつつ、**モビリティに着目し、車利用者の訪問促進**につながるような新たな公園となることを目指します。また、利用者を増やしつつ、近隣の住民がこれからも住み続けたいと思える安らぎ、ぬくもりを感じられる交流の場となることを目指します。

ダイアグラム



現在の琵琶湖文化公園について

- ・駅からのアクセス悪く、バスの本数も少ない。土日は、通勤時間帯しかバスが運行しておらず、日中、公園へ行くのが難しい状況。また、すべて瀬田駅と滋賀医大を結ぶバスであり、沿線以外の住人は来訪しにくい。
- ・よく利用する人の多くは車で来訪されているが、駐車場の空きが多い。月1回以下の利用が約6割、いったことがない人が約2割占めており、びわこ公園を知っている人があまり多くはないと思われる。
- ・公園内がとても広いので、用事のある場所に行きそのまま帰宅してしまう人が多い。広場、日本庭園、図書館、美術館など様々な施設や風景が公園内に広がっているにも関わらず、全体的な回遊性が生まれていない。

表-7 利用交通手段

項目	1よく利用する	2たまに利用する	3利用しない	計
1 路線バス	23	52	125	200
2 タクシー	11.5%	26.0%	62.5%	100.0%
3 自家用車	157	21	22	200
4 自転車	78.5%	10.5%	11.0%	100.0%
5 徒歩	10	21	169	200
	5.0%	10.5%	84.5%	100.0%
	9	23	172	200
	2.5%	11.5%	86.0%	100.0%

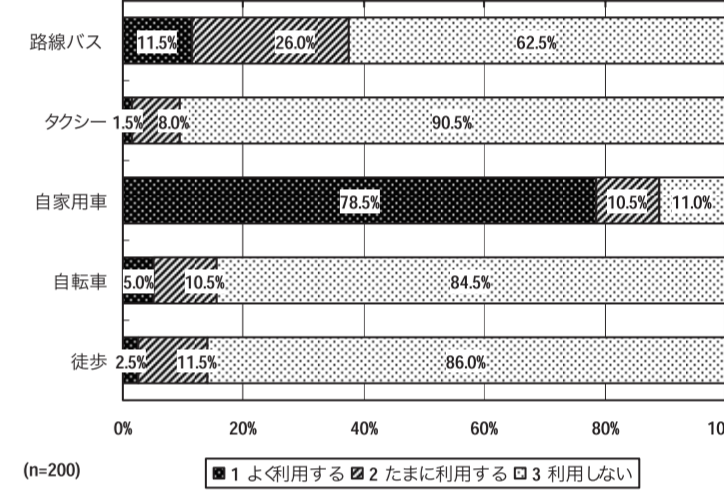
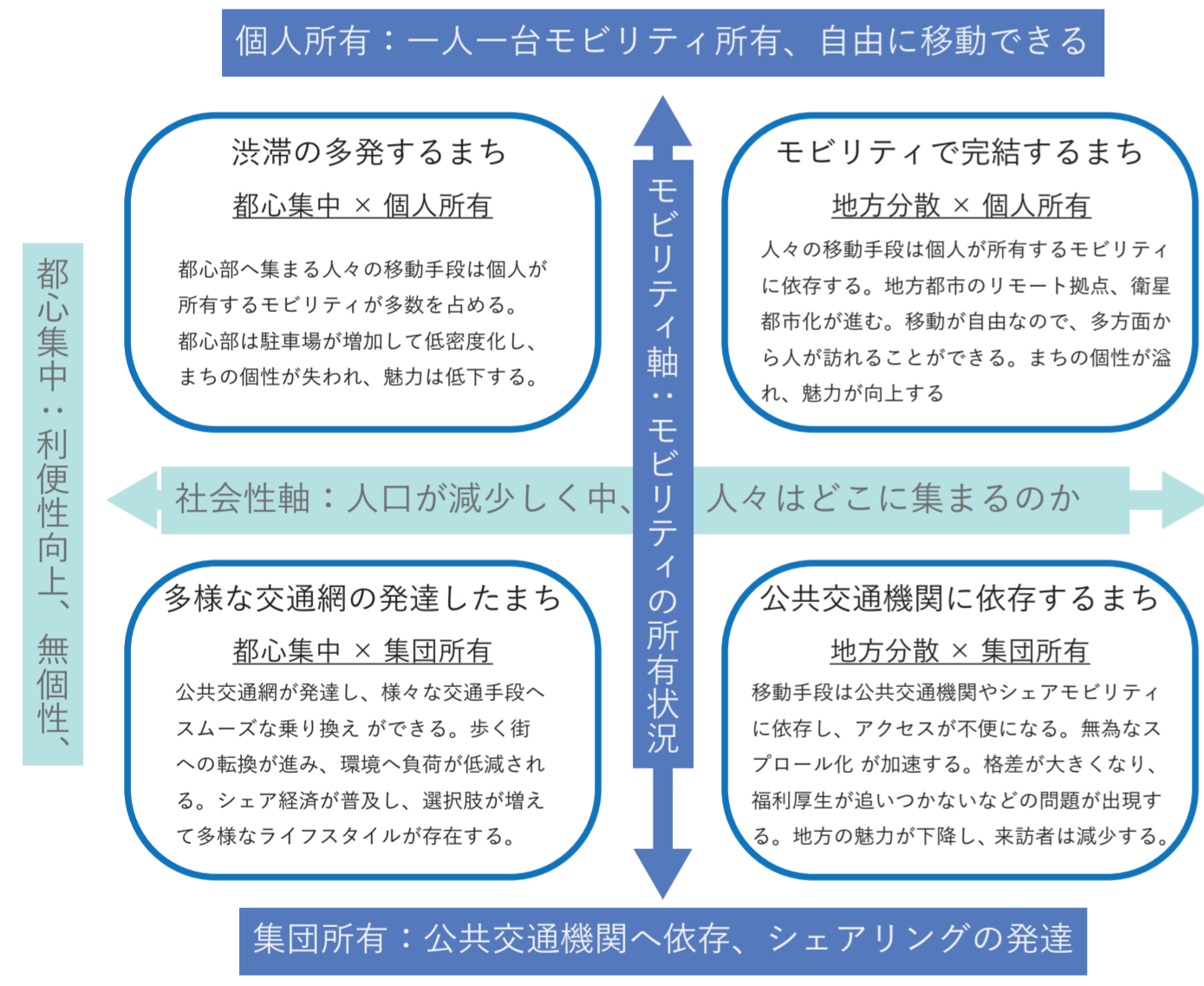


図-4 利用交通手段
[びわこ文化公園都市について] アンケート調査結果より
<https://www.pref.shiga.lg.jp/ie/attachment/11770.pdf>

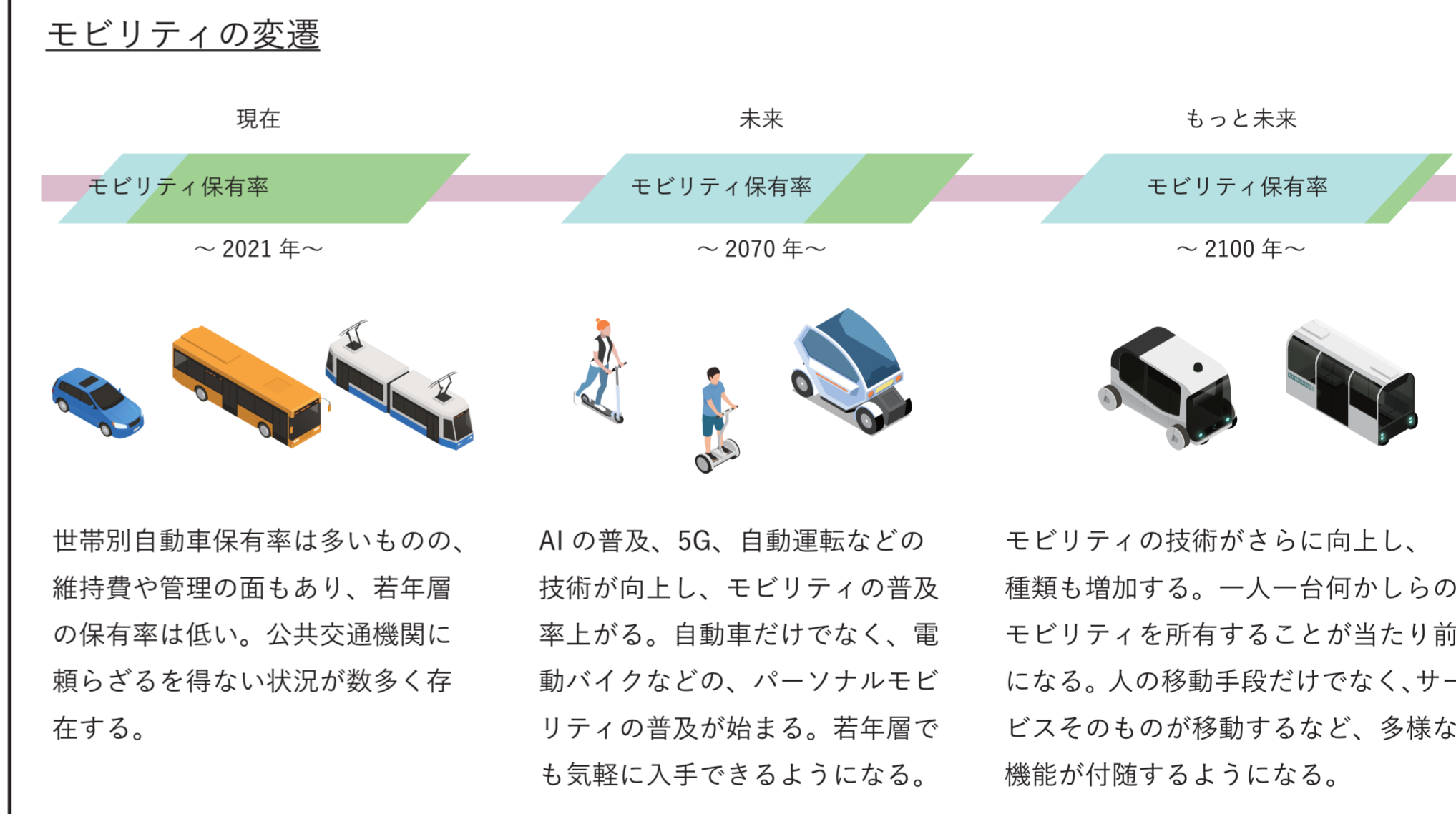


自分たちの考える将来の公園像

○モビリティで完結するまち
人々が一部の都市に集中するのではなく、**地方にまで分散する社会**。モビリティに依存するが、他地域からの来訪機会が増え、多様性が生まれる。また、まちの伝統文化が守られやすく、**文化や産業のパラエティ性が維持されるサステナブルな社会**。

△多様な交通網の発達したまち
都心集中とモビリティの集団所有が進むことで滋賀県を含む地方都市と交通網の多様化している都心部とで**交通格差がさらに広がる**。また、大都市依存と大都市への機能集中が進むことで滋賀県の魅力が相対的に低下し、持続可能なまちづくりが困難になる恐れがある。

地方分散・アイデンティティの確立、地域文化の多様化



車に乗ったまま楽しめる公園内のアクティビティ



①ドライブピクニック

モビリティ × ピクニック

お気に入りの場所を探してピクニックができる。モビリティに乗ったままでもよし、降りて外の空気も楽しむもよし。自分の空間を作り上げよう。

④道の駅パーキング

モビリティ × 道の駅 (休憩所、温泉)

旅の疲れを公園内の休憩所で癒す。草津SAとの連携も兼ねて、温泉や休憩所などのスペースを公園内に配置する。

②ドライブックスルー

モビリティ × 図書館 (読書)

ドライブスルーで本を借りて、公園内の自然に囲まれた空間で読書ができる。事前予約システムを使って、スムーズに図書館を利用しよう。

⑤カールミネーション

モビリティ × イルミネーション

公園内イルミネーションをゆっくりドライブしながら見てまわる。歩く時とはまた違うスピード感を楽しもう。

③観覧自動車

モビリティ × 観覧車

いつも乗っているモビリティがいつの間にか観覧車に!?! 観覧車からは、南草津の街と琵琶湖が一望できる絶景が待っている!

⑥ドライブシアター

モビリティ × ライブ (シアター)

乗り馴れた自動車の中で、音楽ライブや映画を楽しむことができる。広大な場所の中でも自分たちだけの空間を創りながら楽しめる。